

中学生・高校生のためのサイエンス・カフェ

社会制度の設計と選択：概要

鈴木興太郎

早稲田大学名誉フェロー、日本学術会議連携会員

欧州連合（EU）離脱の是非をたずねた英国の国民投票、史上最悪といわれた米国の大統領選挙など、昨年欧米では投票制度や選挙制度を手段として重要な社会的選択が行われました。いずれの場合にも、直接当事国の英国や米国には留まらない深刻な波紋が、今回の選択の結果としてグローバルに広がることは必然的です。今回のサイエンス・カフェでは、これらの事例を背景に、制度の社会的な設計と選択に関する基本的な問題点を考えてみたいと思います。

議論の焦点としては、次のような問題を取りあげる予定です。

- (1) そもそも制度とはなにか。制度は人びとが選択できる《変数》なのか、それとも人びとの行動を制約する《規則の体系》なのか。
- (2) 英国と米国の選択結果は、いずれも驚きを持って迎えられた。意外性をもたらした要因には、選挙や投票の適用を歪ませた党派的な情報操作も一部あるが、これらの制度に内在する不備も指摘されなくてはならない。
- (3) 現在の日本では、政治家やメディアによって《制度設計》という用語が頻繁かつ安易に用いられている。制度の設計と選択を的確かつ理性的に実行するためには、踏まえるべき《作法》がある。この基本的な作法を身につけることは、人文学・社会科学を学ぶ重要な目的である。
- (4) 経済社会の制度の在り方の再設計が必要とされる大きな理由は、出生率の低下と人口の年齢構成の老齢化、地球温暖化のような環境の変化などをきっかけにして、世代間の処遇の不公平性が見過ごしにできない現状である。

どれも大問題であって、今回のサイエンス・カフェですっきりと解答を出すことは難しいのですが、諸君がこれらの問題を考える上で役立つヒントを提供できれば幸いです。